

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社アイリスマーク		
事業所名	ふれあい小樽・稲穂		
所在地	小樽市稲穂1丁目1番1号		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172001018-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりの体調に合わせたケア、無理なく生活が送れるよう職員で相談、連携してケアにあたっている。
・一人ひとりの体調に合わせて食事形態を変更、食事を食べられるよう支援、介助している。
・外出が難しい状況でも季節のイベントや、地域の料理店の出前を取る等、楽しさを提供できるよう努めている。
・災害時対策要綱を策定、災害時の備蓄も整えている。地震からの火災発生等を想定し訓練実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふれあい小樽・稲穂は繁華街や歴史的建造物の名所、病院にもほど近い距離に立地する開設16年目を迎える事業所です。建物は3階建てで2・3階が居住スペース、1階に多目的ホールを設置しています。感染症予防対策により今年度は様々な事が自粛となっていますが、例年、小学校の体験学習の受け入れや音楽療法士による歌声ひろば、オレンジカフェを地域と協働して催し、また、地の利を活かして商店街での買い物や外食なども気軽に出かけ、地域と交流する機会が確保されています。外出自粛の中、施設内で夏祭り風の模擬店や季節行事を行ったり、誕生会に美味しい釜飯や寿司の出前などで生活を楽しむ工夫を取り入れ利用者の満足感に繋がっています。服薬カレンダーに服薬済み薬袋を入れ見える化を行い、利用者が服薬の失念がなく落ち着いた生活が可能になったり、元気で臥床時間が長い方にとっては体操等の時間帯の調節により離床時間が増え家事もこなすようになるなど課題改善に導く介護計画や支援を行っています。また、新人研修OJTシートの導入や都度、職員意見を反映し業務マニュアルの改善を行うなど働きやすい環境を整えている点も特筆できます。利用者や家族の思いに心を馳せ地域と密着したサービスを提供している事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
		○	2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
		○	3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが			○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送り時にその日のスタッフ全員で唱和し、理念を共有して実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義と役割を盛り込んだ事業所独自の運営理念を標榜し、玄関、各フロアへの掲示や職員ネーム裏に理念を記載し携帯しています。新人職員へは新人研修OJTシートを用いて日々の支援の確認や振り返りを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば1Fホールにてオレンジカフェ、冬には地域の小学校や保育所との交流の場を設けているが今年は感染症リスク回避の為実施できていない。	昨年度は保育園との交流や1階ホールでのオレンジカフェ、音楽療法、ボランティアの受け入れが行われました。今年度は感染症予防対策上限られた交流ですが、回覧板で情報を得たり町内の飲食店から出前を取るなどを行っています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの開催場所として1Fホールを提供していたが今年は外部の立ち入りを制限しているため行えていない。施設見学に来た方の相談を受け、対応などしている。			
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催しているが、外部の立ち入りを制限しているためホーム内の人員でのみ行っている。家族や外部より受けた話を議題とすることもある。その議事録を家族に送付し、意見をもらえるようにしている。	今年度4月からは総括ホーム長を始め管理職以上の関係職員による会議運営を執り、家族等の関係者へ議事録を送付しています。新型コロナウイルス感染対策や避難訓練、実地指導等の報告がなされています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に事故報告書等の相談し、指導・アドバイスを受けている。	市から実地指導で指導や情報を得たり、諸書の届出、運営上の案件等について意見を仰いでいます。行政担当部署とは今年度は書面にてやり取りし利用者に係る適切な処遇に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回開催し、身体拘束にあたる行為がないか確認している。情報を全ての職員に伝達し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド柵の配置や足元センサー設置の是非について会議するなど行っている。	身体的拘束適正化のための指針を定め、3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会を開催しています。委員会では適宜アセスメントを添付し事例検討を行っています。今年度、これらに係る内部研修は10月・2月に実施しています。各ユニット玄関は24時間開錠され、1階共有玄関は防犯上の理由により夜間常のみ施錠しています。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	例年であれば虐待防止に関する研修会に職員が毎年参加しているが、感染症リスク回避の為参加できていない。虐待に関してホーム内で研修を行い、スタッフに周知、虐待の防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加している職員はいるが、職員全員に伝達できている状態ではない。その時々で情報を収集したり、確認したり、相談したりしている状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時又は事前に時間をかけて書面と口頭で十分な説明を行い理解、納得を図っている。質問も随時受け、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年であれば運営推進会議にて意見、要望を聞いているが今年では行っていない。家族ドア越し面会時や電話連絡の際に話を聞き、利用者からは直接聞いて運営に反映させるよう検討している。玄関に意見箱を設置している。	家族からは介護ベットの導入や石鹸置き場、事業所便り等について要望が挙がるなど、意見を表出しやすい環境が窺えます。また、利用者から運動や食事に関して意向を引き出すなどしており、其々対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の業務、フロアミーティング等で職員と意見交換し、聞き取りを行っている。得た意見を責任者会議にて提出し、運営に反映させるよう検討している。	年2回ホーム長が職員との個別面談を実施しています。ミーティングや日常業務内でも職員からの意見や情報を取り入れ一緒に調整しています。業務マニュアルの見直しや改善を行い働きやすい環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準では各自に向上心を導き出せるような体制作りに着手している。成果も出ているがまだ十分とまではいかない状況。労働時間等は個々の職員の状況に合わせて調整できる体制作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の状況に合わせて研修参加の機会を調整しているが、今年は感染症リスク回避の為参加できていない。社内研修にて虐待防止、感染症対策について研修行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	感染症リスク回避の為相互訪問研修、懇親会の参加や外部研修等に参加できていない。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに向き合い、本人が安心できるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から要望等をしっかりと聴き、良い関係作りに努め、少しでも不安を減らせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人、家族の思いや状況を把握し、まず生活に慣れて頂く為の支援、その後は本人に必要な支援の見極めに努めている。特に初めは細めに連絡、情報を伝えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でその人に出来る事をやってもらい、家事等を共に行うことで日常の暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪の際に日常の様子を伝えている。居室で本人との時間を持てるよう支援している。家族に近況を伝え、その場で意見、要望を聞き対応するよう努めている。今年は感染症リスク回避の為、通院以外での外出はできていない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医等本人が通っていた医院を継続できるよう努めている。又、年賀状、電話連絡等関係が途切れないように支援している。面会ではドア越しにて対応し、リモート面会用の設備も整えている。	面会自粛以前は、知人や友人の方々が訪れていました。現在、家族との面会はガラス越しやリモートで行っています。開設時より家族への年賀状や残暑見舞いを出す支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう利用者同士が会話したり、一緒に作業できるよう支援している。座席にも配慮している。トラブルが発生した際には職員が間に入り関係の改善に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談や支援に取り組む姿勢は心がけているが、実際には交流は少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に本人への聞き取りや何気無い会話等から、本人の思いや希望を把握するようにしている。聞き取りが難しい時は本人本位になるよう検討している。	本人に直接聞き取りをしたり生活歴や会話の中から意向等を把握しています。把握が困難な場合は家族から情報を得たり、ケアの中で表情を見ながら検討しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を入居前に本人や家族から聞き、基本情報に記入、ホームでも可能な限り続けていけるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に過ごすことで一人ひとりの生活、現状を把握するよう努めている。その時の状態によって介助方法を変える等している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れて介護計画を作成している。モニタリングは計画作成者以外の職員が担当している。	個別日報に介護計画の実施状況・反応・分析・成果を記載して情報を蓄積し、職員による多様な視点でのモニタリングにより課題等の分析を行っています。介護計画は関係者の意見等を盛り込み、現状に即した計画作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報にケアの実践結果を記入し、情報を共有している。フロア日誌にも開示、申し送りにて意見交換し、実戦や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて柔軟に対応するよう努めている。感染症リスク回避の為、通院以外の目的で外出は行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は感染症リスク回避の為音楽療法やオレンジカフェ等の地域との交流、近所の店までの外出等買い物に行く等行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医を利用している。主治医に状況報告し、指示を仰ぐようにして、関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。	利用開始前のかかりつけ医への受診継続が可能であり、また、2週に1度協力医療機関主治医による往診体制を整えています。看護師職員による健康管理支援が行われ適切な受診や日常支援に活かされています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が週2回来ており、情報や気づきを伝えている。日常のケアや受診のアドバイスを受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に情報交換を行い、面会時には状態の確認、聞き取りを行っている。退院の際は本人の状態を確認しながら家族と相談し希望を聞く、退院を早める等の対応を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時にまず本人、家族に説明を行い意思確認をしている。実際に医師より終末期と診断された際には再度家族、医師と併せて話し合い方針を共有している。	利用契約時に重度化対応・終末期ケア対応指針と看取り介護についての事前確認書を説明し同意を得ています。医師の判断に基づき関係者間で再度話し合いをして合意を図り、看取り介護が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置、職員全員が普通救命講習を受講している。1度受講した職員も再受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、総合避難訓練を行っている。災害時避難要綱を作成している。災害時の食料備蓄、備品の確保も行っている。今年は地震発生からの火災を想定した訓練を実施した。	昨年10月に日中・地震・津波・火災想定での避難訓練、12月は夜間・火災想定での避難訓練を実施しています。通常期での訓練には地域住民の協力が得られています。災害備蓄品を備えています。	利用者の様々な居場所を想定した訓練や冬期における災害備蓄品の充足など対策を強化する意向であるので、その実現に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その人に合った言葉かけ、伝わり易い言葉かけを心がけている。	利用者へは名字や下の名前に「さん」付けで呼びかけています。表情や仕草でも利用者の意思を確認し、無理強いのない介護に努めています。個人記録類は保管場所を取り決めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やフロアでの体操参加等、日常生活の中で自己決定できるよう働きかけている。利用者の状態により職員が介助する場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その人のペースで生活できるよう起床、入床の時間等支援、介助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際におしゃれをしたり、入浴時に服を選んで貰えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等、利用者と一緒にやるよう一人ひとりの力を活かしながら実施している。可能な限り自力で食事が出来るよう個人の状態に応じた食器を活用している。	職員がバラエティ豊かに献立し、季節の行事食や旬の食材を取り入れています。誕生日には本人の好みで釜飯や寿司の出前、ケーキなどを提供し、今年度は自粛していますが例年は洋食レストランや寿司、ぜんざいなど外食をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	硬いものが食べられない人には柔らかくしたりと一人ひとりの状態に応じ提供形態を変える等支援している。嗜好品の他、乳飲料を身体状況に応じ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じて見守りや声掛け、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて下着・パッド類の見直し、使用の支援を行っている。可能な限りトイレで排泄できるよう誘導回数を増やす等対応している。	排泄状況を個別日報と生活記録に記載し、個々のパターンを把握して本人に適した排泄を支援しています。排泄のアセスメントにより、衛生用品類を適宜見直しています。誘導時はさりげなく声かけし羞恥心に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を主治医に報告、相談し下剤服用を調整している。水分摂取、乳製品の飲食、運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	出来るだけ希望やタイミングに沿うよう努めている。入浴の際には希望を聞き、拒否がある時には別の日に変更するよう対応しているが、状況に応じて100%対応出来ている訳ではない。	曜日を問わず午後の時間帯で利用者1人につき週2回入浴できるようにしています。テレビを見てから入りたいなどの希望や入浴順、好みの湯加減など、利用者の意向に応じています。湯船に浸かれない方は足浴で保温しシャワー浴で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて支援している。体調に応じて日中も居室で休めるよう誘導、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は個人毎に綴り確認できるようにしている。変更があった際にはフロア日誌に開示し職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	より楽しめる場面提供、レク等の提供に努めている。その人の状態に合わせてフロアでの活動に参加支援している。嗜好品、気分転換の支援は十分に行えていない。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染症リスク回避の為、通院以外での外出を支援できていない。例年であれば誕生日に本人の希望にて外出しての夕食など支援していた。	今年度は通院支援での外出が主ですが、事業所玄関前やすぐ側を歩く程度の外気浴、1階ホールでの歩行訓練をしています。例年は潮祭りのねりこみの見学や花見、買い物、夕食など、個別外出も含め支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態によりホーム預かりがほとんどとなっている。個人で管理している方もおり、個人購入の要望には買出し支援等で個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望の際に電話の支援を行っている。残暑見舞いや年賀状など季節毎のハガキ作成の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に壁紙を作ったり、季節のお花、壁のディスプレイ等で季節感を演出している。その他、行事の写真を利用者の方に切り貼りしてもらって、思い出の演出に配慮している。温度・湿度を定期的にチェックし、季節によって加湿器を設置する等している。	ユニット毎にソファコーナーの設置など設えは違いますが、利用者と一緒に掲示物を作ったり、毎月、飾り付けを工夫し季節等を感じられるようにしています。加湿器、空気清浄機、エアコンが完備され、空調を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の席を気の合った利用者同士で過ごせるように対応している。共用空間で独りになれる空間作りはできていない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は特に家庭で使い慣れた物の持ち込みを積極的に勧めている。その後も本人、家族の思いを聞き、居室内の模様替えなど可能な限り対応している。	居室にはクローゼットが備え付けられています。座り慣れた椅子や鏡台等の馴染みの家具類や遺影などの大切な品々が持ち込まれています。本人、家族と相談し使いやすく落ち着ける居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングにて話し合い、一人ひとりの過ごし方について検討、また居室内の家具の配置を検討し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		